

(1) 尾 張 大 橋 全 景 (横濱船渠株式会社製作)

## 尾張大橋架設工事大要

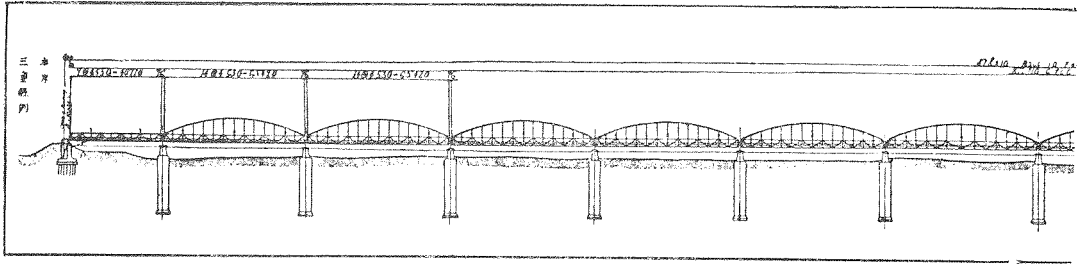
愛知縣土木部長 川 越 篤

【位置】 尾張大橋は東海道の大幹線國道壹號路線に當る尾張と伊勢との國境を貫流せる木曾川に架設せるものにして、東は愛知縣海部郡彌富町西は三重縣桑名郡長島村の間に介在し、帝都と大廟とを連絡する特殊の路線に位す。

【架設の由來】 木曾川を横斷するには僅に渡船を以て彼我の道路を連絡するに過ぎず。一度出水來らば交通運輸は杜絶し不便實に名狀すべからざる状態なり。現下道路交通完備の

急務なると共に昭和四年十二月遂に、幾多の困難を排し橋梁架設の議確定し、國庫の補助を得昭和五年三月起工、以來滿三ヶ年七月迄に昭和八年十月竣功を告ぐ。

【橋體】 橋梁全長878米81種(483間3分)有効幅員7米50種(4間1分)下弦材下端より最大洪水位迄の有効空頭1米50種を保たしめ、1 徑間長63米42種(ピンの中間々隔)の補剛構付繫橋13連と徑間長40米77種の單構桁1連とよりなる。



【橋面工】 橋面は厚15厘半の鉄筋混泥土工とし、其上部は厚5厘のアスファルトブロックを以て鋪装せり。

【積載荷重】 各部材の設計積載重は、8噸自動車、11噸輾壓機、毎平方米に500疋の群集荷重の通過に耐ゆ。

【橋臺及橋脚】 橋臺は扶壁式鉄筋混泥土工にして、基礎は末口18厘長5米の松丸太杭を打込みたり。橋脚は幅5米40厘長14米の長方形鉄筋混泥土潛函を最干潮位以下平均25米の深度迄沈下せしめ、上部に有効天幅2米10厘（コーピングの幅2米40厘）兩側面10分ノ1の勾配を有する小判形の鉄筋混泥土軀體を築造せり。

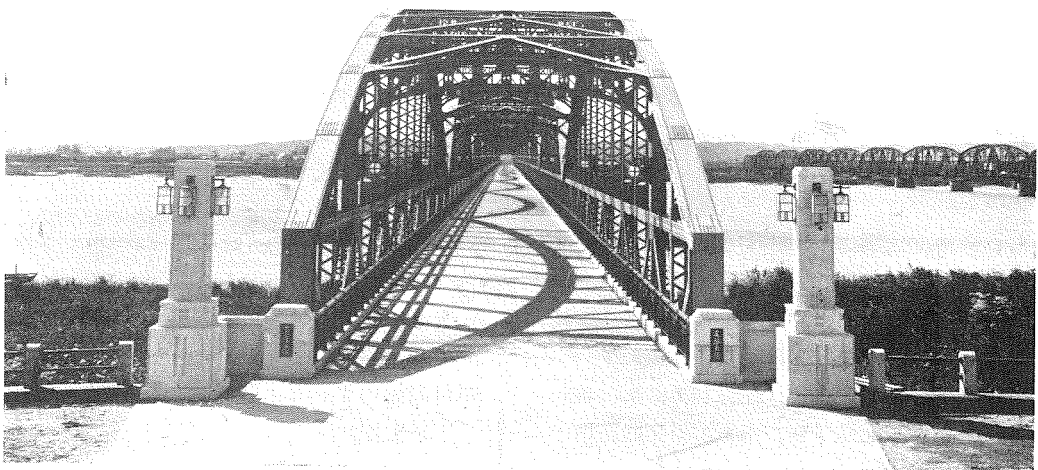
【附帶工事】 左岸取合道路延長212米内中央車道部幅員7米50厘には厚12厘の基礎混泥土

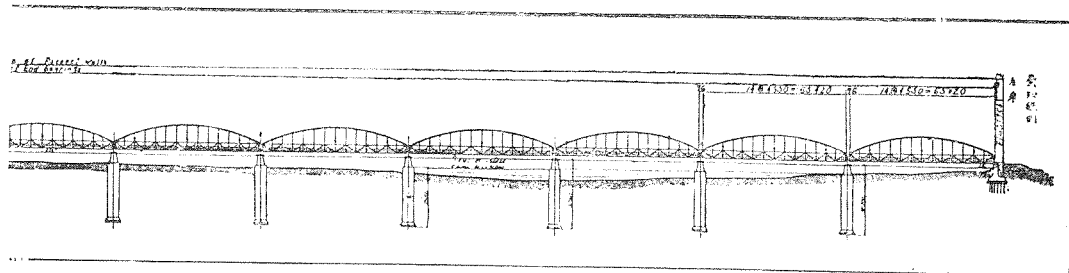
（配合1.3.6）の上に厚5厘の膠石（配合セメント1碎石1.7）鋪装を施せり。

右岸取合道路延長286米幅員12米内中央部幅員7米50厘は左岸と同じ工法を以て鋪装せり。

【主要使用材料】 橋體鋼材	2,842噸
セメント	168,290袋
混泥土(配合1.2.4)	18,029粒
同上(配合1.3.6)	5,141粒
橋面鋪装(アスファルトブロック)	6,448秤
膠石鋪装(取合道路)	3,392秤
高欄鐵材(鑄物)	159噸
石材 男柱袖高欄及緣石共)	111粒
照明用電燈(60ワット)	98個
使用職工並人夫	96,178人
【所要工費】總額	1,560,188圓

(2) 尾張大橋正面(左岸愛知縣側)





橋梁工事費	1,350,136圓
内 { 上部工事費	596,141圓
{ 下部工事費	753,995圓
取付道路費	132,708圓
土地買収費	8,488圓
物件移轉等補償費	912圓
雜費	67,941圓

橋脚並上部架設工事 株式会社間組

8頁 土崎港のケーソン

一つと きー

以上要するに「ケーソン」曳航々路に一部水深浅き箇所ありこれを浚渫するもその水深を保持すること困難なる事情にあるを以て「ケーソン」の吃水を輕減して曳航沈設作業に支障なからしめた。「ケーソン」の波力に對して安全なるは贅言を要せず河口港は何所も土崎港と同じ事情にあり又水深浅き港灣工事に於て「ケーソン」使用を有利とする場合参考に資して可然工法と思はれるので敢て貴重な誌面を汚す事にした。 (了)

【工期】上部工事	着手	{ 昭和七年六月
	竣功	{ 昭和八年十月
下部工事	着手	{ 昭和五年三月
	竣功	{ 昭和七年九月
取合道路	着手	{ 昭和五年五月
	竣功	{ 昭和八年十月
總工事着工以來滿	年	七ヶ月
【工事請負者】橋臺工事	中央土木株式會社	
上部結構鋼材製作	横濱船渠株式會社	

(3) 尾張大橋側面 (右岸三重縣側より)

